

KEISHŌ NAKANO

特別展

# 中野恵祥

—板金の造形—



山羊花挿(東京芸術大学蔵)1959年

**1992年9月30日(水)—11月15日(日)**

開館時間:午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

休館日:10月5日(月)、11日(日)、12日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)/11月2日(月)、4日(水)、8日(日)、9日(月)

入館料:一般200(160)円、小・中学生100(80)円※( )内は20人以上の団体料金

**渋谷区立松濤美術館**

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03(3465)9421/渋谷駅下車徒歩15分・神泉駅下車徒歩5分

**THE SHOTO MUSEUM OF ART**

## 特別展

# 中野恵祥

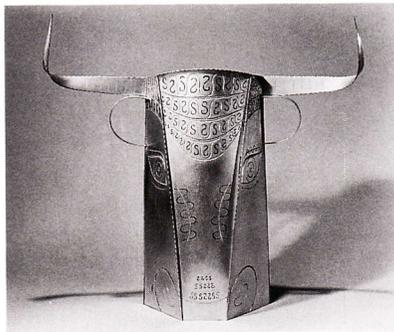
## —板金の造形—

中野恵祥(1899~1974)は、ほぼ昭和の時代を通して活躍した金工家です。初めて工芸部門が設けられた第八回帝展(昭和2年)に28歳で初入選、戦後間もなくの第三回日展(昭和22年)に出品した「双鳥鈕香炉」が特選を受賞するなど、帝展・文展・日展を中心として、主に板金を用いた意欲的な作品の発表を続けました。その後日展の審査員や日本伝統工芸展の鑑査員もつとめています。

恵祥は、白崎白善や香取秀真に師事して彫金・鍍金・打出しなど幅の広い確かな技術を身につけていましたが、彼が世に問うたのは、伝統にとらわれぬ大胆な造形感覚にあふれた板金の作品でした。金属板を折り紙のように自由に組み立てて、牛や蛙などの身近なモチーフを、写実と抽象を織り混ぜて作り出したそれらの作品群には、

作者の温かな人柄と近代的な感性が表現されています。

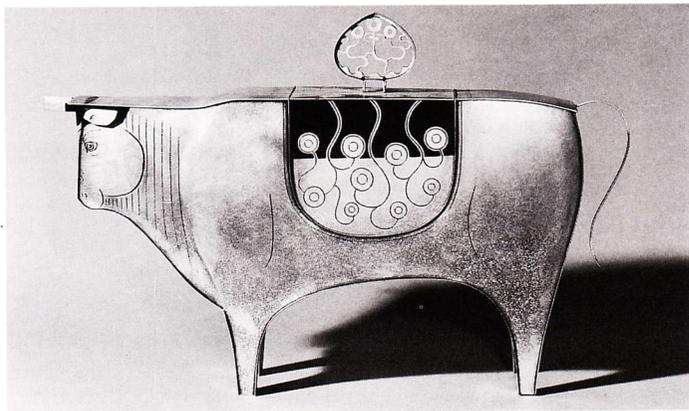
本展覧会は、日展などに出品した代表作を中心に約90点を展示いたしますが、このような本格的な回顧展としては初めてのものであり、これを機に氏の芸術が再評価されることを切望いたします。



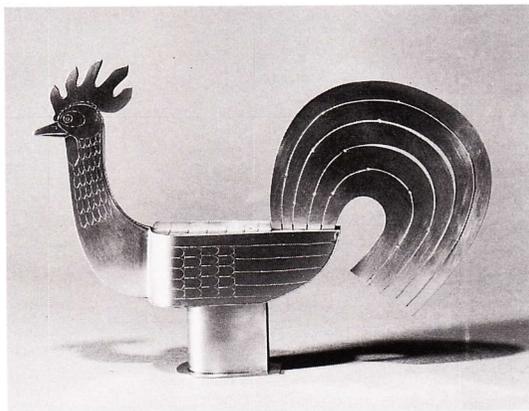
牛頭花挿 1958年



鶏頭 1964年



牛節笛 1969年



雄鶏小笛 1957年

### ■ 講演会 「日本の金工」 10月10日(土)午後2時より

講師：中野政樹(東京芸術大学教授)

### 「昭和の金工と中野恵祥」 10月31日(土)午後2時より

講師：樋田豊次郎(東京国立近代美術館主任研究官)

### ● 美術映画会(午後2時~3時)

10月18日(日) 日本の美:「水平と垂直」「草のころ」

11月1日(日) 日本の美:「日本人の原風景」「境の思想」

### ● 美術相談(午後2時~4時)

10月4日(日) 講師：宮田翁輔(洋画)、佐藤善勇(洋画)

11月3日(火) 講師：西嶋俊親(洋画)、大和屋巖(水彩)

